

「海業」による地域活性化と 中間支援組織の役割

講師：東京海洋大学 海洋科学部
教授 婁小波

- 日時 2013年6月22日(土) 16:00～17:30
- 場所 高知大学朝倉キャンパス人文学部棟1F留学生講義室2
- 問合先 黒潮圏総合科学専攻事務室 ☎088-864-5786
内容については、新保輝幸まで☎088-844-8251 shinbo@kochi-u.ac.jp

地域経済、特に漁村地域の活性化にご興味のある方は是非ご参加下さい

概要： 漁業や漁村の衰退が問題にされるようになって久しい。だが、漁村地域において海に関連する地域資源を活用して新たな価値を付加し、訪問客を呼び込んでツーリズムを地域産業化し、地域活性化につなげる事例や取り組みが全国各地に見られるようになった。そのような漁村地域の生業・産業は、近年「海業」として定式化され、注目されている。

しかし、景観や食材 レクリエーションといった面で魅力的な資源が存在する漁村地域は多くあるが、それを上手に活かして収益を上げている事例はそう多くない。なぜだろうか。

それは魅力的な資源があるだけではビジネスとして成り立たず、(1)散在する資源を見出して適切に結び付け一定のプログラムを開発する、(2)その魅力を外部へ発信すると共に、訪問客など外部者のニーズを地域内部の主体に伝達する、(3)集客や料金の収受、収益の分配などの付随する雑多な業務を行うなどの機能を果たす主体がどうしても必要だからである。また、漁業が行われている空間をツーリズムで利用する場合は、(4)地域資源をツーリズムで活用することに関して地域内の合意を形成し、利用の調整を行う必要もある。

全国の成功事例を見ると、そのような機能を果たす中間支援組織が何らかの形で存在していることが多い。そのような組織がどのように成立し、どのように機能しているかを具体的に事例に則してみることは、高知県における地域活性化を考える上で重要な示唆を与えてくれるだろう。

このセミナーでは、文字通り全国津々浦々、日本中の漁村を歩いて多くの「海業」の事例を研究してきた東京海洋大学の婁小波先生に、「海業」を支える中間支援組織の実態と役割、その望ましいあり方について講演していただきます。

主催：黒潮圏総合科学専攻

DCセミナー指定（博士）（文系）

黒潮圏セミナー指定（修士）（文系）